

**製品名: CDK5 活性化因子結合 C48 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08566**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	CDK5RAP2
別名	CDK5RAP2; CEP215; KIAA1633; CDK5 regulatory subunit-associated protein 2; CDK5 activator-binding protein C48; Centrosome-associated protein 215
遺伝子 ID	55755.0
SwissProt ID	Q96SN8
免疫原	抗血清はヒト CDK5RAP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 251-300

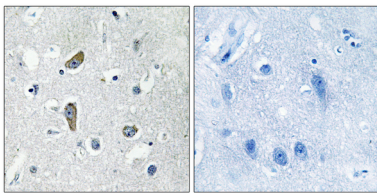
**背景**

この遺伝子は CDK5 (サイクリン依存性キナーゼ 5) 活性の制御因子をコードしています。この遺伝子によってコードされるタンパク

質は中心体およびゴルジ体に局在し、CDK5R1 およびペリセントリン (PCNT) と相互作用し、中心小体の関与および微小管の核形成に関与しています。また、原発性小頭症およびアルツハイマー病との関連が指摘されています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013 年 1 月]、疾患: CDK5RAP2 の欠陥は、原発性小頭症常染色体劣性遺伝型 3 (MCPH3) [MIM:604804]の原因です。小頭症は、頭囲が加齢平均値より 3 標準偏差以上低いことと定義されます。脳重量は著しく減少し、大脳皮質は不釣り合いに小さくなります。この顕著なサイズの縮小にもかかわらず、脳回パターンは比較的良好に保持されており、皮質構造に大きな異常は見られません。原発性小頭症は、他の症候群の特徴や重大な神経学的欠損がないことでさらに定義されます。機能: CDK5R1 との相互作用を介して CDK5 活性の潜在的な調節因子です。その他: ここに示す配列は、EMBL/GenBank/DDBJ サードパーティアノテーション (TPA) エントリに由来します。PTM: CDK5 によって in vitro でリン酸化されます。配列注意: Gln として翻訳されます。サブユニット: CDK5R1 (p35 型) と相互作用します。CDK5RAP1、CDK5RAP2、および CDK5RAP3 は CDK5R1 と競合的に結合します。おそらく CDK5R1 および CDK5 と複合体を形成します。組織特異性: 広く発現しています。心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、膵臓で発現します。

## 研究分野

## 画像データ



CDK5RAP2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。